

9月20日は
バスの日です

みんなのバスをいつまでも

～生活に必要な路線を維持するために、積極的にバスを利用しましょう～

明治36年9月20日に、京都市内で日本初の乗合バスが運行されたことから、この日を「バスの日」と定めています。公共交通として、長く市民を支えているバスについて、バスの日をきっかけに考えてみましょう。

◎市民安心課 ☎36・7144

市 コミュニティバス（以下、コミバス）は、児童・生徒の通学や移動交通手段のない高齢者の通院や買い物など、市民の生活の足を確保するために運行しています。

コミバスの利用者数は、平成21年度から減少が続いていましたが、平成25年度に、ようやく前年より1%の増加となりました。しかし、現在運行している16路線（※）には多額の運行経費が必要で、運賃収入と県の補助金を除いた市の財政負担は、年間約1億5000万円となっています（グラフ1）。

※1「川根地区スクールバス」と「湯田地区デマンド型乗合タクシー」を含む。

民 間の路線バスは、概ね近隣市と共同で運行する自主運行路線「萩間線」「勝間田線」の2路線があります。いずれの路線も利用者は減少傾向にあり、また金谷島田病院線を維持するための補助金の支出が増加している状況です。

市 では、コミバス車両の更新時に「低床ノンステップバス」の導入を進めています。このバスは、小さなお子さんやお年寄り、体の不自由な人などが乗降しやすいように乗降口の床を低くしたバスで、現在、島田地区で4台運行しています。今年度は、金谷地区にも1台導入する予定です。

また、島田地区と一部の金谷地区の路線では、ICカードによる運賃精算ができるため、JRの「TOICA」や「Suica」などが利用できます。

将 来にわたって市民の生活に必要なバス交通を維持していくため、既存路線の運行時間帯や回数、経路の見直しを行います。また、予約式による需要対応型の運行を取り入れるなど、利用しやすく効率的なバス体系を作っていきます。

バスなどの公共交通機関の利用が進むと、交通渋滞の緩和や交通事故発生件数の抑制につながります。また、二酸化炭素排出量の削減など、環境対策にもなります。

市民の皆さんも、ぜひ、日常生活の移動手段に、公共交通の利用を考えてみましょう。

「くらし・消費・環境展 2014」では、コミバス車両の展示・乗車体験・記念撮影およびパークラフトの配布を予定しています（本紙21ページ参照）。お気軽にご来場ください。



低床ノンステップバスの乗降口

■コミュニティバスの利用状況と市の財政負担額の推移（グラフ1）

